

C 3 大阪府下の都市在住者の食生活実態調査結果（第二報）

大阪ガス 〇田畑真理 殿畑操子

目的) 一般に食嗜好の地域性が強いと言われる大阪の食文化形態、及び調理行動の実態を把握するため、以下の調査を実施した。本調査より興味深いデータが得られたため報告する。

方法) 大阪府下の都市に在住している20歳から59歳の主婦(年齢構成比は国勢調査に基づく)を対象に、日常の調理行動における、作成メニュー(加熱したものに限り)、使用した厨房機器、調理時間帯及び調理所要時間の冬期・夏期(91年1月26日～2月1日・9月7日～13日)の2回延べ14日間の記録と厨房機器の所有状況及び保守状況について、調査票留置方式にて調査を実施した。調査データの集計及び解析には、IBM社製MVS-E SA・SAS Ver. 6.06を用いた。

結果)

- ① 作成メニュー及び調理ジャンル別の構成割合については季節による差がみられた。
- ② 10年前の社内調査と比較すると、食生活の和食回帰傾向がみられた。
- ③ 厨房機器の使用頻度は全体に夏の方が減少するが、ガステーブルコンロについては差がない。
- ④ 調理時間帯は主婦の就業形態によって差がみられた。
- ⑤ 1日1回、夕食時に0.621炊飯しているのが平均的なパターンである。